

グループ名	ユニット名等	科目名	担当教員名	対象学年次	学期
自己発見	2単位 文化を知る	美術	手塚 千尋	1年次	春

授業のキーワード	人の文化的営みの軌跡としての美術、ワークショップ、グループワーク
授業の概要・目的及び修得させる知識・技能	本授業は、①過去の広義の美術（アート）から、「いま」を創造する視点や価値観につながるヒントを得ること、②生涯的に美術と関われるよう、美術の楽しみ方を学ぶことを目的としています。講義に加え、作品の鑑賞やミニアートワークなど、ワークショップ形式で授業を進めていきます。
履修のアドバイス・前提科目等	この授業では鑑賞やつくる活動など、参加すること・広義の美術（アート）を体験することを通して学ぶことを大きな目的としています。美術の得意・不得意に関係なく積極的な参加を期待します。

授業展開

	テーマ	内 容		テーマ	内 容
第1講	ガイダンス・イントロダクション	授業前アンケート、これからの学習内容についてのガイダンス。	第9講	安土桃山～江戸時代の美術②	前講で学んだ江戸時代の琳派の大胆で「粋」なデザインをテーマに、ミニアートワークショップをおこなう。
第2講	「美術」とは	「美術」とはいつから始まったのか。原始美術と先史時代の美術を取り上げながら、美術とは何かを考えていく。	第10講	西洋美術とジャポニズム	近代美術（新古典派～世紀末美術）の流れを追う中で、印象派におけるジャポニズム（日本美術）の影響を確認していく。
第3講	ギリシア美術とローマ美術	前講で続き、先史時代の美術（古代美術）を取り上げて、キリスト教が成立する以前の西洋美術の特徴を理解していく。	第11講	現代アート	20世紀後半、「美術」から「アート」へ多様化するアートの世界を、現在盛んに行われているアトリエンナーレ（ビエンナーレ）の作品を具体例で解説・体験する。
第4講	キリスト教と美術①	キリスト教と西欧美術の深い関連をもつ。初期キリスト教美術（ビザンチン～初期中世）を取り上げる。カタコンベ（地下墓所）の壁画や福隣品、モザイク画などからこの時代の美術の特徴を理解する。	第12講	日本美術の体験①	第12講・13講連続で、日本美術をテーマとしたワークショップを実施する。
第5講	キリスト教と美術②	前講に引き続き、中世美術（ロマネスク・ゴシック美術）を取り上げる。教会建築に焦点を当てる。	第13講	日本美術の体験②	第12講・13講連続で、日本美術をテーマとしたワークショップを実施する。
第6講	ルネッサンスという社会現象	西欧の文化と精神を一変させた、「ルネサンス（再生）」とはどのような概念であったのか。ミケランジェロやボッティチェリの作品や建築を取り上げながら、イタリアでの盛期ルネサンスを中心にその現象について学んでいく。	第14講	まとめとふりかえり	授業内容をふりかえり、ポートフォリオをまとめる。
第7講	バロック・ロココ美術	バロック（ゆかんだ真珠）時代のオランダ（北ネーデルランド）を中心に取り上げる。レンブラント、フェルメールの作品から様式や当時の社会状況を併せて理解していく。	第15講	試験	試験は予め提示した課題に対するレポート。下書きやメモの持ち込み可。
第8講	安土桃山～江戸時代の美術①	前講で取り上げたロココ～バロック時代と同時期の日本の美術を取り上げる。屏風絵、襖絵、浮世絵、琳派の作品を中心に鑑賞する。	評価方法		出席率 30%、ポートフォリオ 30%、レポート 40%
備考 (関連する資格・試験等)		この授業では、ポートフォリオも評価の対象とします。ポートフォリオには、授業で配布したプリントや制作物をファイリングする他、鑑賞でどのようなことに気づき、学んだのかなど自分自身の学びの過程を記録していきます。			
使用する教科書（必ず購入してください）			参 考 文 献		
特になし。随時資料配布。			美術検定実行委員会編『美術検定副読本 西洋・日本美術史の年表——目瞭然！美術の流れ』、美術出版社、2009		